



生活クラブ風車



夢風News

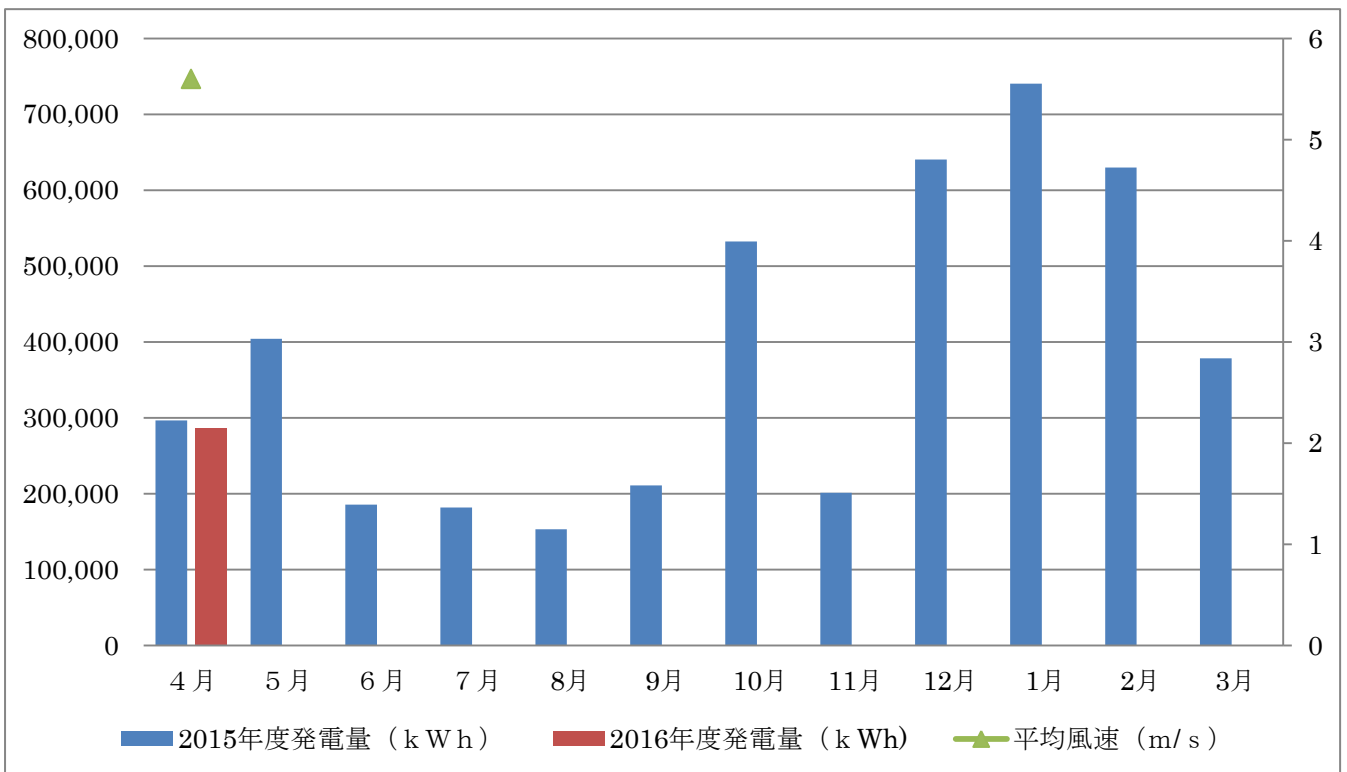
Vol.47

●発行 2016.5.15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩（代表理事） ●編集責任者 鈴木伸予

■ 2015年度 発電実績 ■

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	286,904【96.7%】	5.6	20.0	10月			
5月				11月			
6月				12月			
7月				1月			
8月				2月			
9月				3月			



○ 今月の風況は、平年並みでした。

○ 4/8～15まで風車の定期点検（4年次）を行い、風車を停止したため、稼働率89.7%と下がっています。

■グリーンファンド秋田理事会報告

4月28日に2015年度第5回理事会を行いました。

2015年度事業報告及び決算報告書の承認、2016年度事業計画及び予算を承認しました。

また、第9期社員総会開催について、2016年度のにかほ市との交流企画方針及び予算、夢風ブランド品開発活動の2016年度方針及び予算、夢風ニュースの年間発行計画、人形町オフィスの賃貸借契約について承認しました。

その他、にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会幹事会報告、電気の共同購入先行申込者の世代別と契約アンペア別の人数と分布について、夢風ブランド品の取組などを報告しました。

■各生活クラブで省エネ講座が開催されています

生活クラブでは、電気の共同購入と共に、省エネの学習会が各単協や支部で行われています。

生活クラブのエネルギー政策の柱はエネルギーを「減らす、つくる、使う」です。また、生活クラブエネルギー7原則を定めており、その1番目に「省エネを柱とします」とし、昨年からは省エネ講座をすすめています。グリーンファンド秋田は省エネ講座の講師を受託しています。

5月11日、生活クラブ埼玉の吹上支部で省エネ講座が行われましたので、その様子をご紹介します。

この日は、吹上支部委員会の主催で、およそ20人の組合員の方が参加されました。

まず、省エネを実感しようということで、4つのチームに分かれて「省エネゲーム」を行いました。省エネゲームは、300万円の元手で、家電や自動車などの買い替えをすすめ、10年後のCO2削減と収支を学ぶゲームです。チームで一つの家庭を想定し、話し合いをしながらすすめます。



今回は、太陽熱の導入など熱を上手につかって、CO2削減と収支も黒字になったチームが多くありました。

次にグリーンファンド秋田より「積極的な省エネと電気の共同購入」のお話をさせていただき、地域の高校の科学の先生のご自宅での自然エネルギー利用の実践についてご報告頂きました。太陽の熱で温水を作り、暖房に使う工夫や、太陽光や小型風車で電気を作っておられるお話はとても興味深く、また、省エネをがんばりすぎず少しずつ取り組むという点に共感しました。

■芹田営農組合で加工用トマトの定植を行いました

5月8日、前日までの雨が嘘のような晴天の中、芹田地区で、加工用トマトの定植が行われました。加工用の実験栽培2年目となる今年は、27アールと昨年の3倍以上の作付面積で取り組みます。この日の定植には、芹田営農組合の遠藤豊組合長の呼びかけて、営農組合の役員に加えて、婦人部の方や子供たち40人の参加がありました。朝、9時からという事でしたが、少し前から始まり、昨年より人手が多いことと2年目となり慣れたことから、10時前にはセル苗1500本の植え付けが終了しました。



「昨年は加工用トマトの栽培が初めてで何もわからなかったが、今年は2年目となるので少し段取りがわかるようになった。枝わけもしてトマトの収量を上げていきたいと思います。」と遠藤組合長。

また、婦人部の方たちからは、生活クラブのトマトケチャップがとても美味しかったと伺いました。

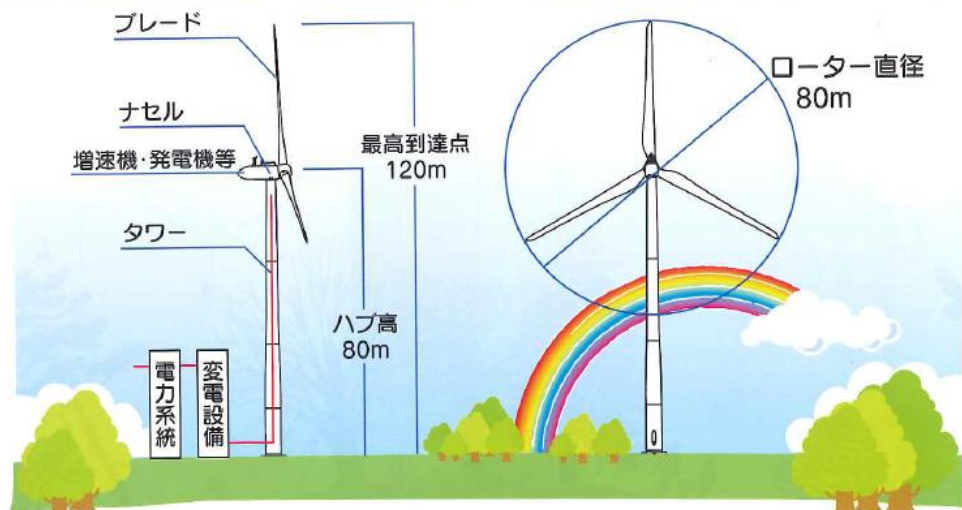
今年は、7月末の組合員リーダーツアーに加えて、8月に法政大学の学生さんたちが収穫の援農に参加する予定です。収穫が楽しみです。



<前列右端が遠藤組合長、2番目が半澤代表理事、3番目が荒川自治会長、
後方の風車の真ん中が生活クラブ風車「夢風」 >

生活クラブ風車 Q&A

風力発電は、風力エネルギーの40%程度を電気エネルギーに変換できる比較的効率の高い発電システムです。ブレードで風を受け、増速機でギアの回転数を上げて、発電機で発電します。発電した電気を変電設備に送って変圧し、電力系統（電線）に接続します。



■「鱈しょっつる」の取組が始まります

夢風ブランド開発第3弾、生活クラブ千葉の組合員と日南工業株式会社さんが開発活動に取り組んだ「鱈しょっつる」が、首都圏4単協の共同購入で7月にデビューします。

にかほ市特産の鱈しょっつるは、淡泊でグルタミン酸の多い魚である鱈と塩だけを使用した無添加の魚醬で、旨みが強く、臭みがないという特徴があります。秋田県の農商工連携認定事業として、日南工業㈱が「うわてん」という商品を開発しています。

2015年度、生活クラブ千葉の環境委員会では、鱈しょっつるの学習会や現地視察を行いました。また、デポフェアや単協独自取組などで、「うわてん」を使った試食とアンケートを実施し、万能調味料として組合員の評価も好評でした。

これらを通じて、日南工業㈱と連携し、容器をガラス瓶とし、ラベルと容量を変更した「鱈しょっつる」が開発されました。

6月20日からの週で申込書が配布され、翌週回収、7月18日からの週に配達されます。ぜひ、おおぜいの組合員で利用して下さい。

